



学校通信

吉里吉里学園
中学部

越郷の丘

令和2年9月16日

第8号 文責：浅沼

跳んだ 走った 笑った 叫んだ
スローガン「全進+1UP」実現
大きな成長 つながるキズナ

大運動会



実に10年ぶりでした。震災後、本校校庭で開催される久しぶりの運動会。何としても実行したい思いが強く、新型コロナウイルス感染予防の対策を施すとともに、前の晩から雨が降り続いていた悪天候からの回復を願いながら、ついに9月5日(土)を迎えることができました。午前中は降雨が予想されていたため、急遽でしたが前日に運動会の日程を午前から午後開催に変更しました。ギリギリの状況ではありましたが、みんなの願いが届いたのか昼前には雨も上がり、昨年完全に復活したグラウンドの水はけは完璧で、むしろ最高のコンディションで開会を待つのみとなりました。

13時20分、無事に開会式。多くの保護者の皆さまや地域の方々に見守られ、生徒たちは様々な想いを込めた風船を手を、元気に入場しました。全体プログラムが縮小されたことにより、例年の入場行進はありませんでしたが、笑顔があふれ、気迫のこもったかけ声とともに大変立派な姿勢での入場でした。実行委員長でもある生徒会長の北田優那さんは「この校庭で運動会ができることに感謝し、今日を楽しみましょう!」と言葉に力を込めました。時に悩み、苦しみを抱え、しかし困難を乗り越えてきた9年生たちの目には、力強い意志が宿っていたように思います。彼らのリーダーシップに支えられ、ともに活動してきた8年生や7年生も短期間で成長の跡を見せ、たくましさが増していたことを嬉しく思います。

運動会を盛り上げる「万国旗」や「富来旗」の掲揚について、PTAのご協力を仰ぐことで当初は予定していましたが、これも天候不順のため断念せざるを得ませんでした。来年度こそは、吉里吉里の空を彩る旗の数々を是非掲揚したいものです。PTAの皆さまには親子競技にも参加していただきました。笑顔と絆があふれる競技となりました。ありがとうございました。



拮抗する實力を見せつけた100M徒競走、最後の最後まで白熱した紅白全員リレー、励ましたり励まされたり、先輩や仲間の優しさを感じてたくさん練習した「大なわ」、ルールの変更にも対応できる柔軟性を発揮した「狙え!金次郎」、そしてアイデアと情熱を傾け、時間を費やしてきた応援活動とダンス・・・いずれの場面でも生徒たちは皆、とても輝いていました。その輝きをこれからの生活に是非つなげてほしいと思います。

改めて、保護者・地域の皆さまには、たくさんのご声援を送っていただき心から感謝いたします。

今後の吉里中生の活躍にもご注目ください。





寮校 2020年(令和2年)9月6日(日曜日)

震災後の光景が、新しい生活様式を取り入れて変化した。大槌町吉里吉里の吉里吉里学園中学校部(或沼寿典校長、生徒36人)は5日、10年ぶりとなる校庭での運動会を開いた。東日本大震災後は仮設住宅があったグラウンドで、生徒たちが練習した。当時の様子や卒業生が活躍している姿を、写真や動画を交えて紹介する。震災の影響で延期に、感染対策を取り、開催にこぎ着けた。かつて校庭で暮らした生徒は、笑顔で競技を楽しむ子どもたちの姿に目を細めた。

大槌・吉里吉里学園中学校部

10年ぶり校庭で運動会

震災後に仮設、昨年返還
「感謝を胸に」躍動

震災後、仮設住宅で暮らした生徒は、校庭で練習した。当時の様子や卒業生が活躍している姿を、写真や動画を交えて紹介する。震災の影響で延期に、感染対策を取り、開催にこぎ着けた。かつて校庭で暮らした生徒は、笑顔で競技を楽しむ子どもたちの姿に目を細めた。



校庭を元気に駆け回る吉里吉里学園中学校部の生徒たち。5日、大槌町吉里吉里

